

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成20年2月28日(2008.2.28)

【公表番号】特表2004-500062(P2004-500062A)

【公表日】平成16年1月8日(2004.1.8)

【年通号数】公開・登録公報2004-001

【出願番号】特願2001-544381(P2001-544381)

【国際特許分類】

C 12 N 15/09 (2006.01)

【F I】

C 12 N 15/00 Z N A A

【手続補正書】

【提出日】平成20年1月9日(2008.1.9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 ゲノムDNA分子の集団からポリヌクレオチド分子を分離するための方法であって、該方法は、

(a) 該ポリヌクレオチド分子を含むゲノムDNA分子の集団を提供する工程であって、該ポリヌクレオチド分子は、標的核酸配列および識別エレメントを含む、工程；

(b) 該ゲノムDNA分子の集団に標的化エレメントを接触させる工程であって、該標的化エレメントは、該ポリヌクレオチド分子の該標的核酸配列に特異的に結合する、工程；

(c) 複数の分離基を含むように該標的化エレメントを伸長させることによって、該結合した標的化エレメントに複数の分離基を選択的に付着する工程であって、分離基の付着は、該標的化エレメントが該標的核酸配列に結合している場合にのみ生じる、工程；

(d) 該付着された分離基を基板に固定し、それによって、固定されたポリヌクレオチド-標的化エレメント-分離基複合体を形成する工程；および

(e) 該ゲノムDNA分子の集団から該固定されたポリヌクレオチド-標的化エレメント-分離基複合体を取り出し、それによって、該ゲノムDNA分子の集団から該ポリヌクレオチド分子を分離する、工程；

を包含し、

該識別エレメントは、多型であり、該標的化エレメントは、該識別エレメントと部分的に重複するオリゴヌクレオチドであり、該分離基は、固定可能な非終結ヌクレオチドであり、該オリゴヌクレオチドの3'末端は、該多型に対して相補的である、方法。

【請求項2】 前記分離基が、ビオチン化ヌクレオチドである、請求項1に記載の方法。

【請求項3】 前記基板が、粒子、ビーズ、磁気ビーズ、またはガラス表面である、請求項1に記載の方法。

【請求項4】 前記固定されたポリヌクレオチド-標的化エレメント-分離基複合体が、複数の分離基を介して前記基板に空間的に連結される、請求項1に記載の方法。

【請求項5】 工程(c)が、3'終結ヌクレオチドをDNAポリメラーゼにより伸長させることによって実施される、請求項1に記載の方法。

【請求項6】 前記多型が、单一ヌクレオチド多型である、請求項1に記載の方法。